

MIWA木場公園保育園

—「都市公園と子育て施設」共存の可能性を求めて—



(株)SOU建築設計室

1 計画概要

○市街地における待機児童解消の為の公園内保育所

■公園内保育所の構想

公園内保育所の基本構想が始まったのは平成27年秋。江東区では待機児童の増加が問題となっており、対策が急務となっていた。既存市街地ということもあり、土地の確保が難しい状況であった為、木場公園での整備計画がスタートした。

■国家戦略特区制度の活用

都市公園では原則建物の建設はできない為、本事業は、国家戦略特別区域法(平成25年12月13日法第107号)を活用し、行われた。江東区は国家戦略特区の認定を得るため、内閣府・東京都、事業法人と区域会議・諮問会議などの調整を行った。

■敷地・建物の所有形態

敷地を東京都が事業者へ貸し付ける民設民営の保育所。占用期間は10年間である。占用期間が満期をむかえた際、保育所以外の施設へ転用するケースもあるが、現在のところ占用期間の更新を行い、引き続き保育園を運営していく予定である。

■公園内整備ゆえの問題点

元の用地が公園であるため、接道している道路には給水・排水・ガス等のインフラが全く整備されておらず、150mほど先にある本管からの引き込み工事が必要となった。開園までに間に合わせることは必至であり、工期が厳しい中での敷設工事となった。

○木場公園内における施設の配置計画

計画地は木場公園内の南側、大横川沿い決定された。

①接道していること。②既存公園利用者の不利益とならない場所。が主な決定要因であった。ゴミ置場として利用されていた場所で、公園利用者の影響のない場所であったため、幸いにも住民の反対意見等はほとんどなかった。



木場公園内における配置場所

2 外観計画

○周辺環境に溶け込むこと

■ボリューム

周辺の樹木の高さとのバランス等を考慮し、高さは抑え、水平ラインが強調されるようなデザインとした。2階までは木々の高さに合わせて設定し、アイポイントとして遊戯室の部分のみ突出させ、強調するデザインとした。

■色彩

公園の緑と調和するように、原色の使用は避け、白色とあずき色を基本カラーとした。アーチ内部の外壁をあずき色、その他を白色とし、アーチの強調されるメリハリのある色彩構成とした。白色は、冷たい印象とならないように、少し赤色の混ざった暖色系のホワイトとした。晴天の日以外はほんのり薄ピンク色に見える。

■植栽計画

敷地内は低木～大高木までさまざまな樹種の植栽帯が敷地をぐるっと囲っていた。既存樹木の配置や樹種の調査を実施し、葉張りの大きい大高木なども枝払い程度で対応し、できる限り既存樹木の伐採はせず、保持する方針で計画をすすめた。工事中の配慮により伐採せず残った樹木もある。元々、敷地を囲っていた植栽帯が、そのまま保育所を包むかたちとなり、敷地外の既存樹木とのバランスを崩すことのない計画となった。



公園の遠方から建物正面をみる。



建物正面



エントランス正面



2階バルコニー



夜は連続するアーチが浮かびあがる

○やわらかな印象をつくる

子ども達にとって居心地の良い、〈もう一つの家〉をつくるため、外観も重厚さやクールさではなく、やわらかく、暖かい印象の建物となるよう計画した。また、公園内で孤立した閉塞的な印象の建物とならないよう開放性も重視した。

■アーチ

昔ながらにあるアーチや列柱の原風景を現代的に解釈した連続するアーチ形状とし、日々子ども達を迎い入れる建物として軽やかに親しみやすい印象となるようなデザインとした。

■開口部

閉塞感のない建物とするため、公園側に対して開口部を多く、大きく設ける計画とした。

■エントランス空間

外部と内部をつなげる場所となるエントランス空間。大きくゆるやかなアール形状の庇が、子どもたちをあたたく出迎える。軒上には不燃のスギ材を張り、よりあたたかさを感じられる仕様としている。

○内部空間からのアプローチ

■景色を切り取るアーチのフレーム

室内からみえる景色に、これほど恵まれた場所は市街地ではめずらしい。サッシのスクエアなフレームからの景色だけではなく、景色の切り取り方に変化を加え、豊かな内部空間をつくり出す。2階のバルコニーはアーチに沿って樹木が並んでいるため、“こちらのアーチはサクラの木、あちらのアーチはヤマモモの木”といったようにバルコニーを駆け走りながら子ども達を楽しめる空間になればと思っている。

3 内部計画

内部空間は公園側へ向けて開口を大きくとり、開放性の高い室内環境をつくることを目指した。基本天井高さは2350mmと、面積に対してはやや低めの高さに抑え、子どもたちの室内環境に適した天井高さとした。

○保育室

■シンプルなしつらえ

この保育園は造形活動を中心にした保育を展開している。保育士さんの季節感あふれるディスプレイや子ども達の創作や作品展示が行われることを前提にしているため、各保育室は白と木を基調にごくごくシンプルな空間としている。白いキャンバスに絵の具がのせられていくように子どもたちの芸術作品で彩られていくことを期待している。

■年齢と活動にあったインテリア

1階の0～2歳児室は基本的に、はいはいしたり、歩きはじめなどの〈床に近い〉子どもたちであるため、床材はやわらかいコルクフローリングの仕様。子どもの受け渡しコーナーは、高さ1000mm程度のロッカーで仕切ることにより、限られた面積の中で窮屈さを感じさせないつくりとしている。2階の3～5歳児室は活動が活発になってくる子どもたちであるため、床材は少し硬めで丈夫なカバサクラのフローリングを使用した。

○エントランス

■登園が楽しくなるような森のエントランス。

1日のはじまりとおわりを迎える場所。おまめ型の下がり天井や木のオブジェなどにより、明るい雰囲気のエントランス空間をデザインした。



5歳児室



1歳児室 アールの下がり天井は2歳児室とひとつながりでデザイン。



ステージ正面をみる。ステージの奥には地域交流室越しに公園の景色がみえる。

○集いのホール — 遊戯室 兼 ランチルーム —

多目的に使用できるホール。アーチ型の高天井やカーテンウォールにより、開放的で明るく、景色の良い場所となるよう計画した。また、ボルダリングや吊り輪型のペンダント照明を設けることで、子ども達のわくわくするような空間づくりを目指した。主にはランチルーム・遊戯室・行事の際のホールとして使用されるが、夏の間はプールテラスと連続し、着替えなどのスペースとしても活用する。

■ハレの場所

入園式・卒業式、さまざまはイベントが催される場所となるため、西側中央には昇降ステージを設け、地域交流室がバックヤードとして利用できるように、ステージサイドには扉を設けた。

■おいしく食べる、気持ちの良い空間

子どもにとって〈食べる〉ことは、とても大切な行為であり、公園を見渡すことができる明るく気持ちの良いホールは子どもたちの食欲を促す役割を果たす。食べることが楽しい、好き、と思える時間をつくる空間づくりを意識した。また、食育の観点からは、隣接する調理室とホールは透明ポリカの建具でつくり、子どもたちが、ご飯がつくられる様子を見て楽しむことのできる仕様としている。

■〈木場〉という土地ならではの地域協力

木場公園は、昔、貯木場であった場所が埋め立てられ、その跡地に造成された公園である。そのような木場の歴史があったため、木材事業者の団体である〈東京原木協同組合〉から本整備計画への協力の申し出があった。約130㎡分の無垢のスギ材を提供いただき、遊戯室と地域交流室の床に使用させてもらうこととなった。



遊戯室入口から開口部をみる。



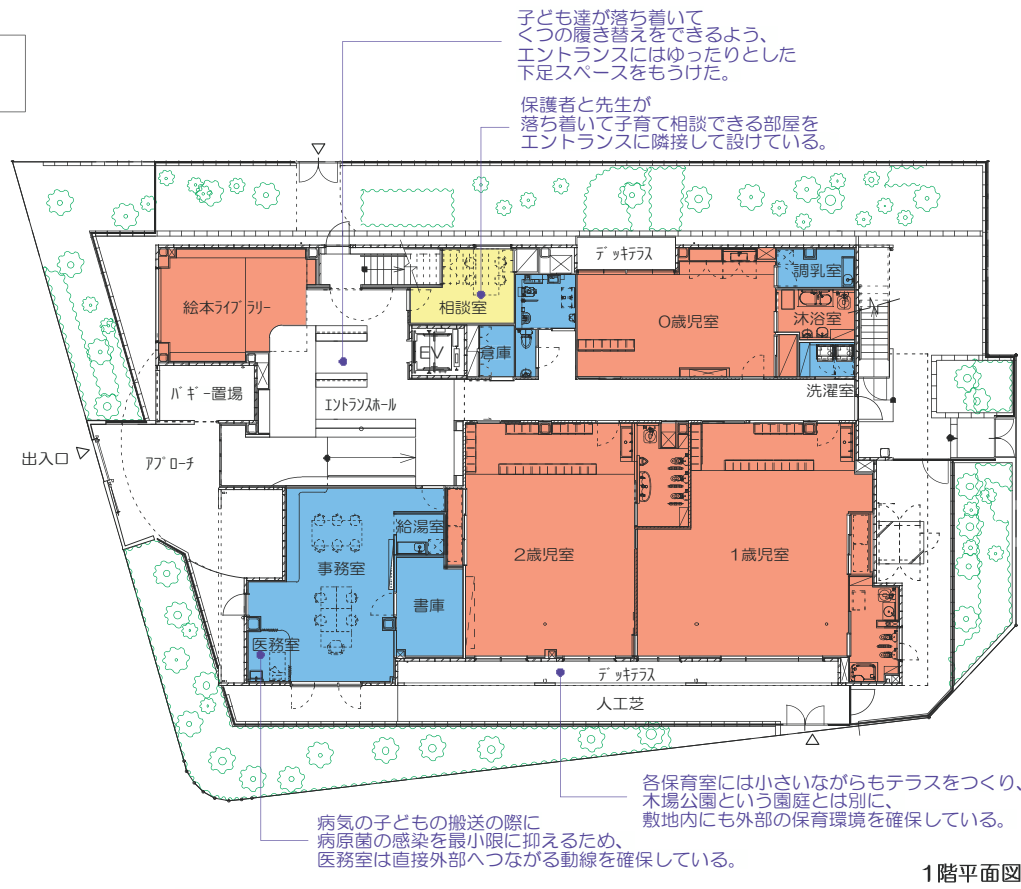
調理室から遊戯室をみる。



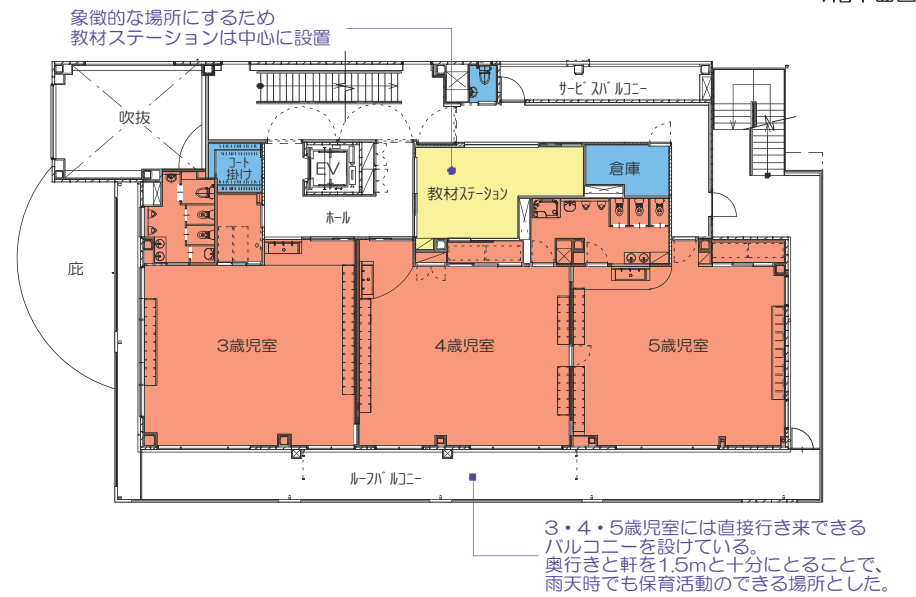
入り口からエントランスホールをみる。

4 プランニング

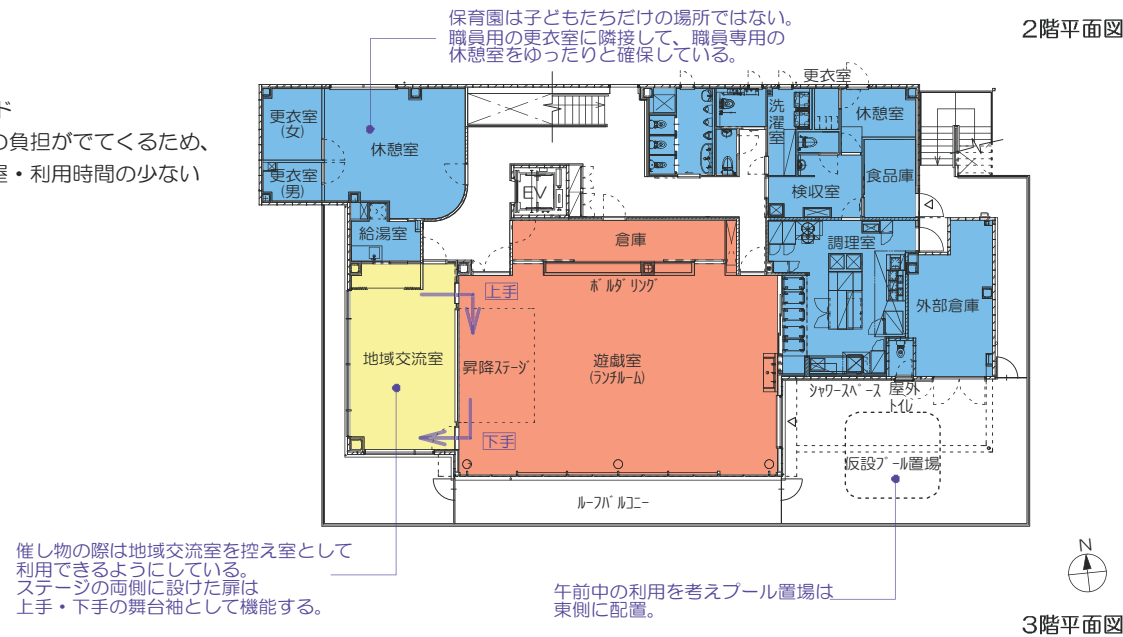
- 1階は乳児・幼児室を主に配置。自分で階段の上り下りのできない年齢の子どもたちの部屋とエントランス空間がメイン。災害避難時にも有利となる。



- 2階は保育室群をメインに配置。保育室は景色と日当たりの良い南側に設けている。



- 3階は特別な場所+バックヤード。階数が増えると子どもに移動の負担がでてくるため、主に、子どもの使用しない部屋・利用時間の少ない部屋を配置。



5 保育+αを目指して



○教材ステーション

2階の中心に配置した美術教材準備室。

- 2月は 節分
- 3月は おひな祭り
- 5月は こいのぼり
- 10月は ハロウィン
- 12月は クリスマス etc...

子どもたちにとって楽しいイベントが毎月やってくる。催し物の飾りなどが準備される過程を美術準備室をのぞきながらドキドキ・ワクワクしながら待ち望む...そんな場所が美術教育の中心に存在する。

○地域交流室

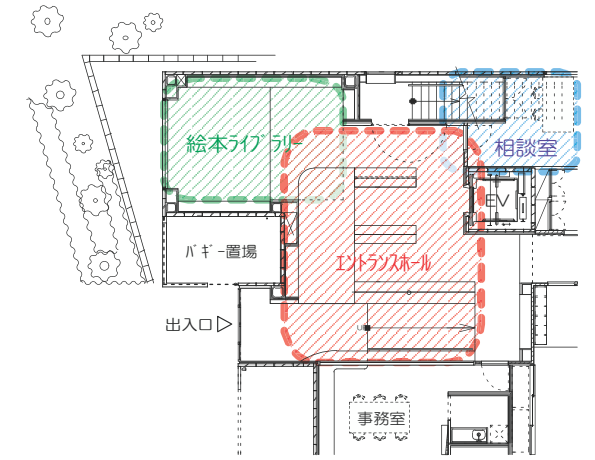
3階の遊戯室に隣接して設けている地域交流室は、子育て支援事業や地域交流の場所となる。地域や公園に対して開かれた場所を設け、積極的なつながりをもつことで、この場所に保育園の存在する意義をもたせ、地域や公園利用者に愛される保育園を目指す。

○防災拠点としての役割

都立木場公園は東京都の広域避難場所である。防災公園内に建設される保育園として、防災拠点としての役割を付加させるため、防災機能を積極的に取り入れようと、外部備蓄倉庫や太陽光の設置に加え、今後も大型発電機や防災行政無線の設置が検討されている。

○絵本ライブラリー

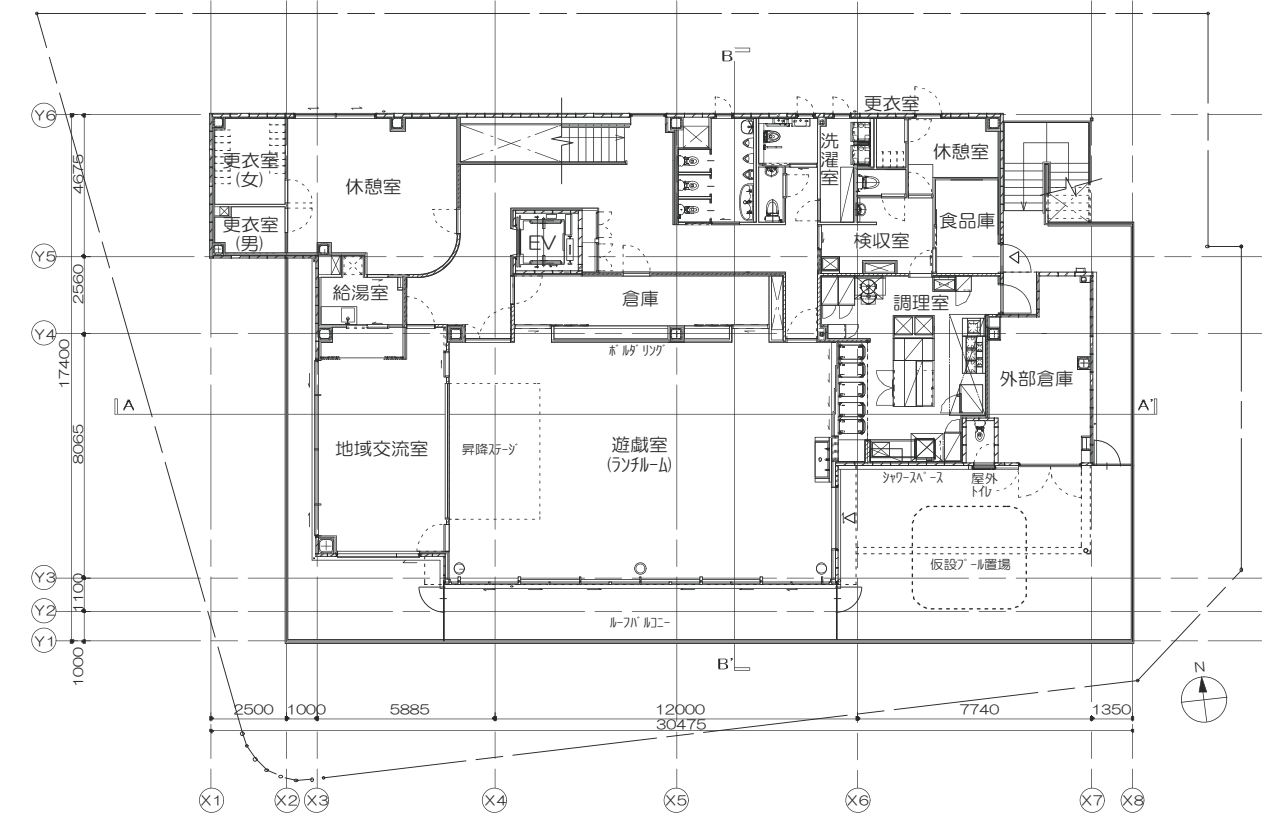
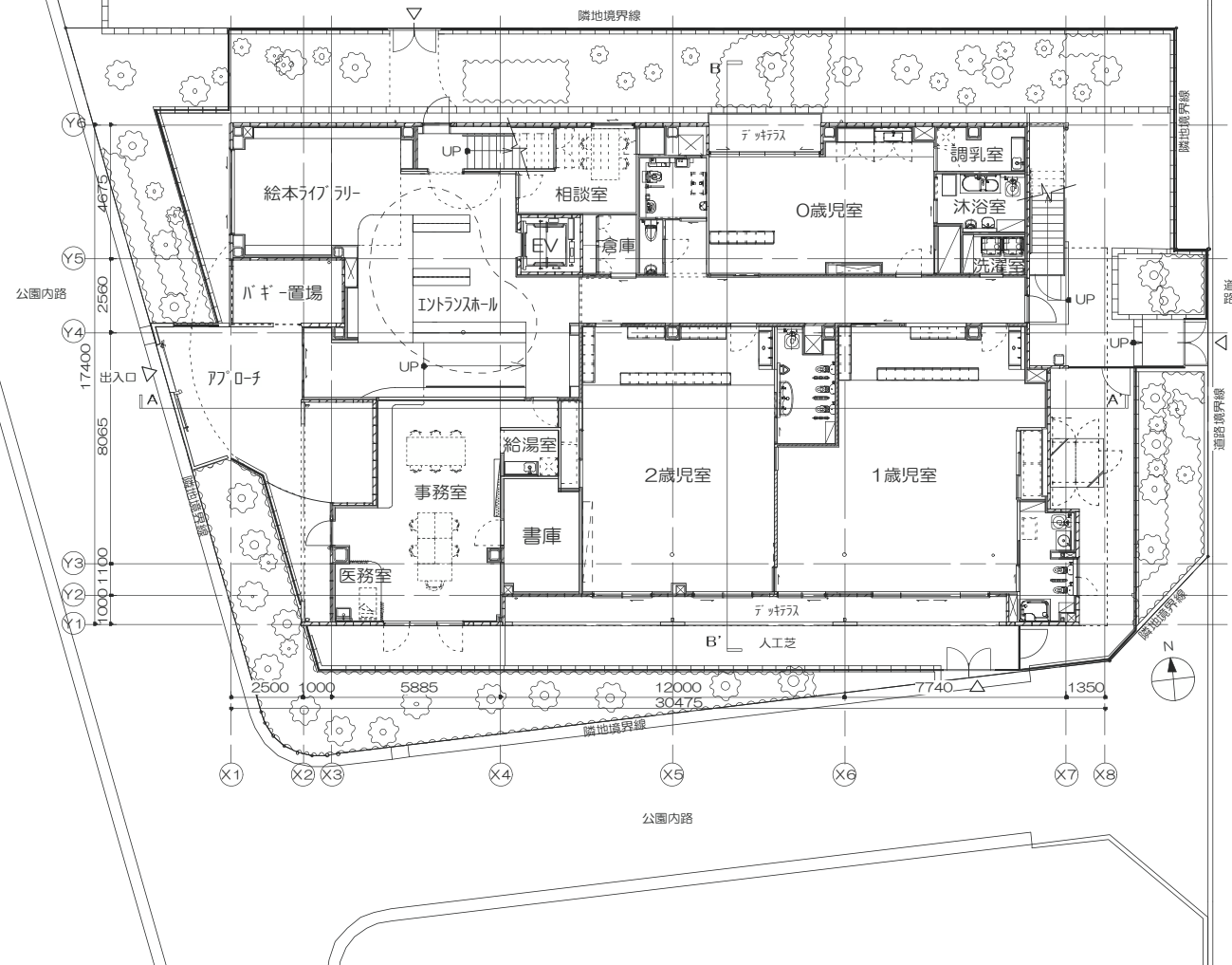
■1階のエントランスに付属して設けた絵本ライブラリー。単に絵本を読むための空間ではなく、園児の送迎時の不安をやわらげる場所としての機能も持ち合わせている。エントランスから保育室までにワンクッションおける場所、〈心の準備スペース〉である。さらにここは、子どもたちの為だけでなく、保護者たちにとっても有意義な場所である。家族の孤立化が進むなかでの、子育ての悩みを抱える保護者たちの情報交換や、休息の場所として大切なスペースとなる。プライバシー性の高い、個室の相談室をエントランスホールに隣接して設け、エントランスホール 絵本ライブラリー・相談室が一体として自然に仕つらえられている。



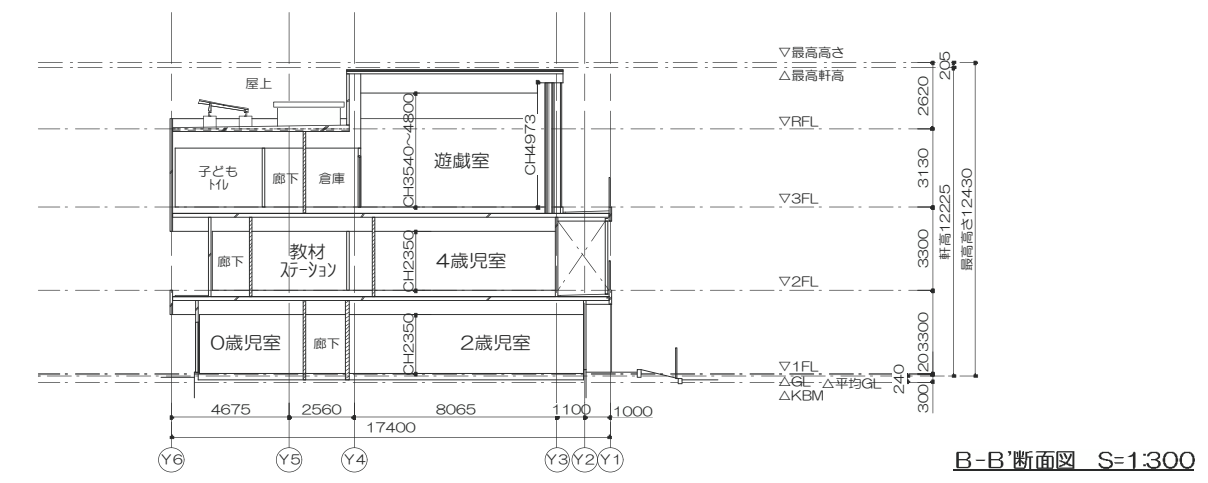
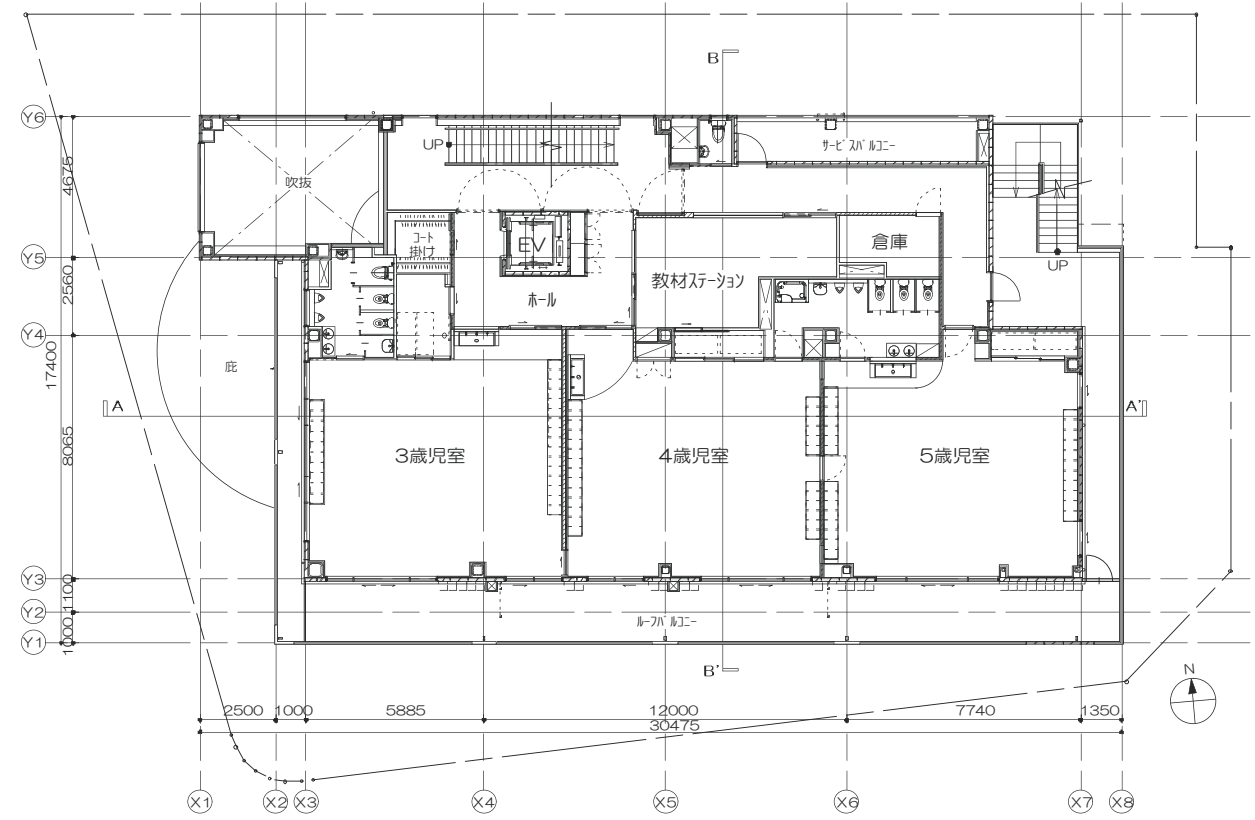
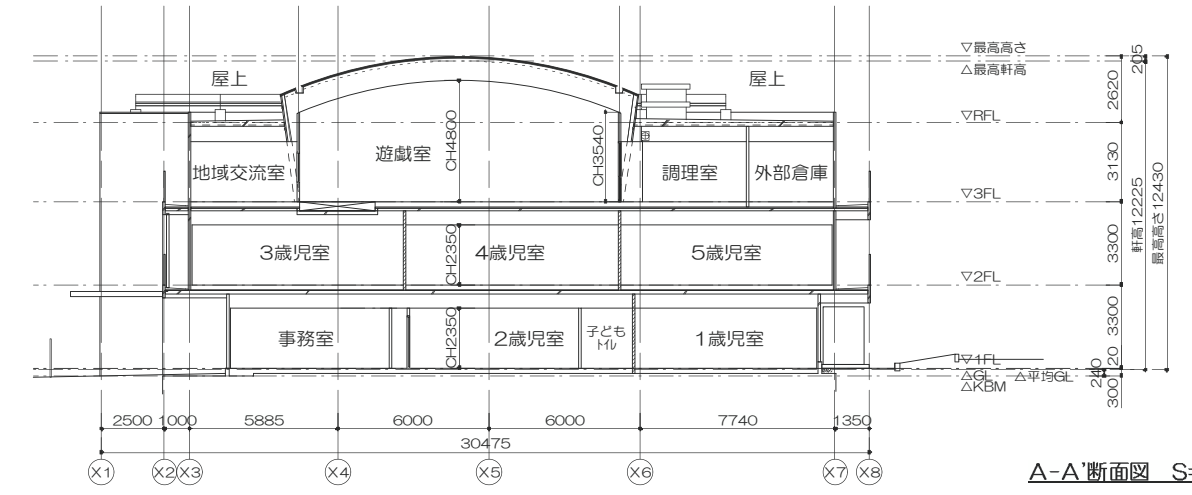
- 吹き抜けや開放的な大開口により、心落ち着く、居心地の良い空間とし、与えられた場ではなく、自然と人が集まる場所となるよう計画した。



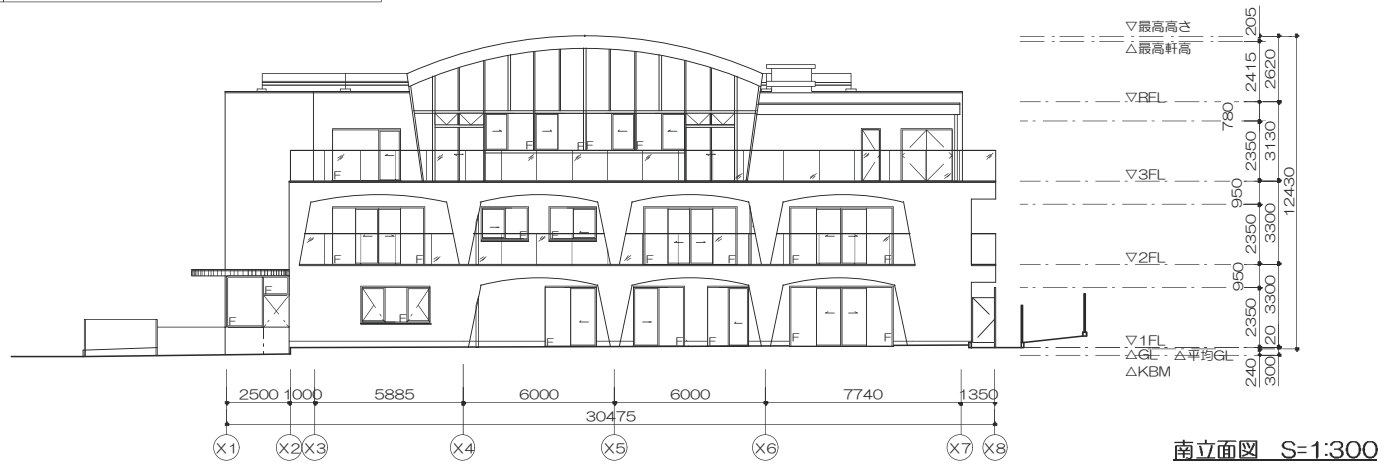
6 各階平面図



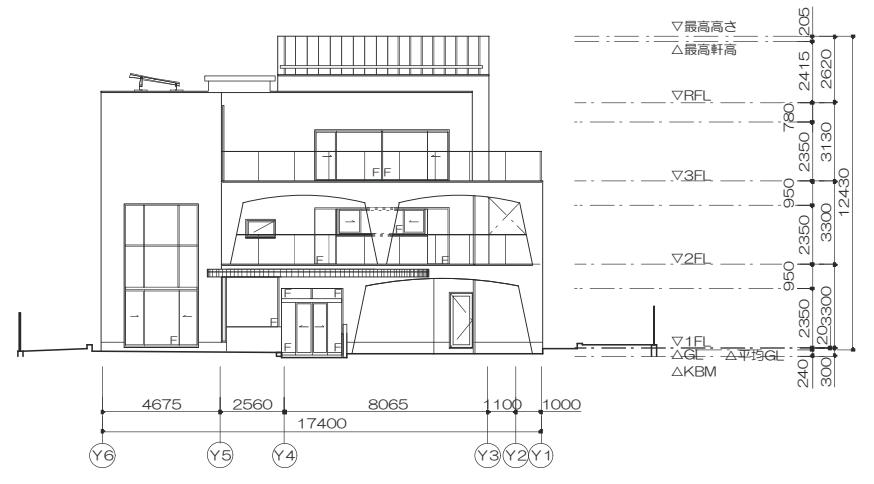
7 断面図



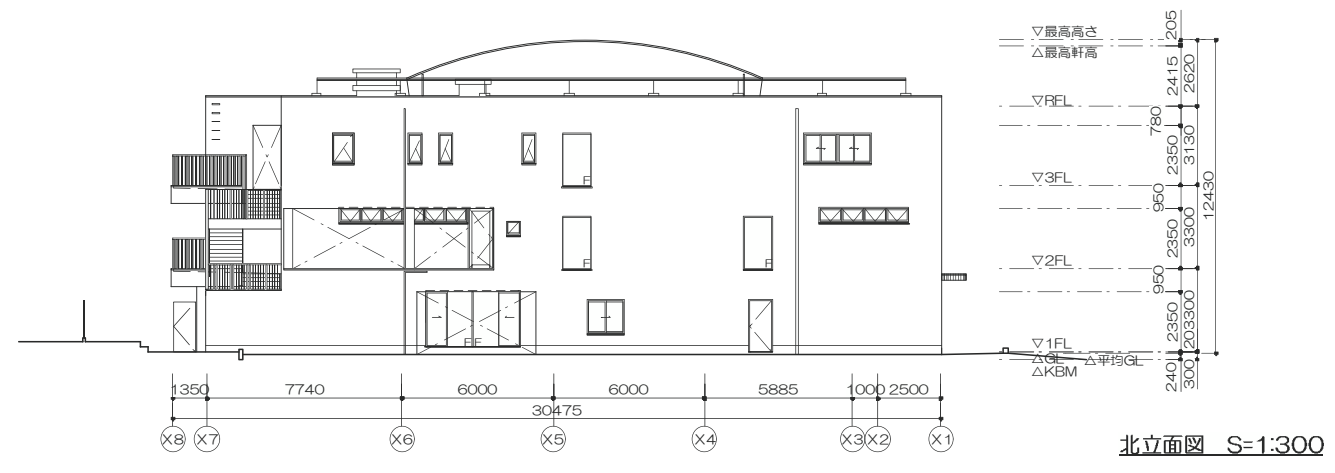
8 立面図



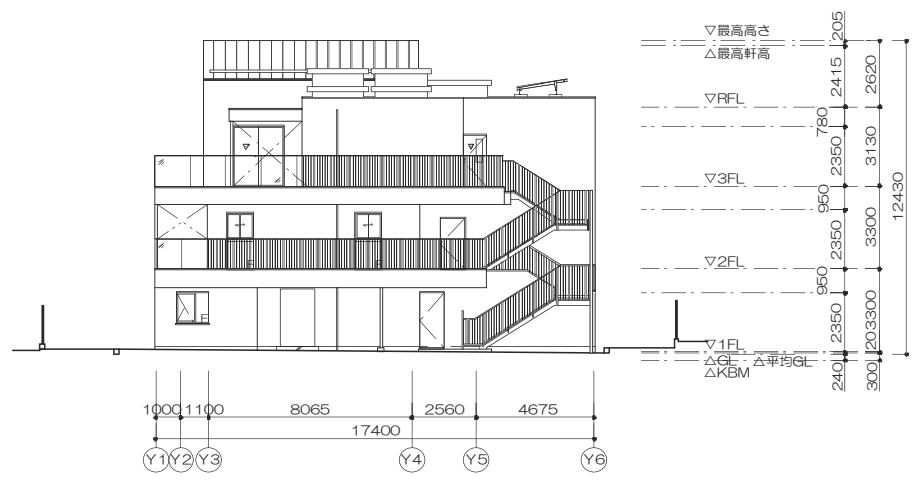
南立面図 S=1:300



西立面図 S=1:300



北立面図 S=1:300



東立面図 S=1:300

■MIWA木場公園保育園 基本データ

- 名称：MIWA木場公園保育園
- 所在地：東京都江東区木場
- 主用途：保育所(東京都認可保育所)
- 構造規模：鉄骨造 地上3階建て
- 敷地面積：346.38㎡
- 建築面積：497.17㎡
- 延べ床面積：1192.53㎡
- 寸法：最高高 12.45m 最高軒高 12.23m
- 発注者：社会福祉法人 みわの会
- 設計者 建築：株式会社 SOU建築設計室（清水義文 毛利さやか）
構造：yAt構造設計事務所 合同会社（中畠敦広）
設備：さくら設計事務所（島田櫻輔）
鈴木設計事務所（鈴木秀夫）
- 監理者：株式会社 SOU建築設計室
- 施工：谷沢建設 株式会社
- 外部仕上げ：屋根：デッキプレートのうえ
硬質ウレタンフォーム保温板 t=25
防水シート
外壁：ALCパネルt=100(アクリルゴム系防水形複層塗材)
- 内部仕上げ：床：フリーフロアの上フローリング
壁：石こうボード下地ビニールクロス貼り

- 定員：130名
- 構成(定員)
- 0歳：6名
- 1歳：20名
- 2歳：26名
- 3歳：26名
- 4歳：26名
- 5歳：26名
- 面積(有効面積)
- 0歳：31.8㎡
- 1歳：66.18㎡
- 2歳：56.55㎡
- 3歳：57.76㎡
- 4歳：56.27㎡
- 5歳：53.65㎡
- 職員：35名
- 開園時間：7時30分～18時30分
(延長保育：18時30分～20時30分)

□写真：特記なきは 有限会社 新写真工房（堀内広治）